

プログラム



会員卓話

「ソフトテニスとは」

荷稻 實 会員  
(昭和11年生れ)  
(昭和62年11月入会)

ソフトテニスは、ネットを挟んで相手と向かい合い、ラケットを使ってボールを打ち合ってポイントを競うスポーツです。自分のコートに飛んできたボールをノーバウンド（コートに一度もつかない状態）か、ワンバウンド（コートに一度だけついた状態）で返球します。

ソフトテニスの試合にはダブルスとシングルスがあり、対戦方法としては個人戦と団体戦があります。

試合は、7ゲームマッチ(4ゲーム先取)か9ゲームマッチ(5ゲーム先取)で行われるのが一般的です。1ゲームは4ポイント先取です。ただし、ファイナルゲームだけは7ポイント先取で行います。カウントのとり方は、0(ゼロ)、1(ワン)、2(ツー)、3(スリー)と簡単に誰にでも判りやすくなっています。

ソフトテニスのダブルスの魅力は、ラリー（球の打ち合い）が続くことや、2人のプレイヤーのコンビネーションの妙技にあります。

ラリーの見どころとしては、シュートボール（速いボール）での打ち合いの迫力はもちろん、ロビング（山なりのゆるいボール）やショートボール（短いボール）を織り交ぜた多彩な攻撃や、スマッシュやボレーなどの華麗なネットプレーが挙げられます。

コンビネーションは、パートナー同士がお互いにカバーし合うだけでなく、相手陣形を崩すような配球をしたり、ポジション取りを変えたりすることによって、味方のプレイヤーがポイントしやすいようにプレーしたり、相手のミスを誘ったりすることもあります。このようなことは平素からお互いの気持ちが通じ合っているから可能なことであり、ダブルスならではの魅力です。

ソフトテニスの特色である2人で協力して1ポイントを獲得するラリーの応酬も楽しませてくれますが、更には、選手の個々の動作に注目するとラリーの応酬とは、ひと味違った競技の楽しみ方ができるはずです。

ソフトテニスの歴史

ソフトテニスの歴史は明治13年頃に英国から渡ってきた「ローンテニス」（硬式庭球）が横浜居留地に伝わり、体育伝習所教官のリーランド氏（米人医師で体育指導者）が学生に教えたのが始まりで、明治17

年に日本独自のゴムボールを使用する軟式庭球が生まれました。

明治23年、東京高等師範学校の要請によって「三田土ゴム」がテニス用ゴムボール「赤Mボール」を製造し、以後日本独自の「軟式庭球」が普及した。軟式庭球大会としての記録が残っているのは、明治31年、東京高師と東京高商の対抗戦が始めで、その後、早稲田大学・慶応大学が加わり4校の対抗戦は人気を博しました。

連盟創立80余年、連盟創始120余年を経て、今では、老若男女問わず幅広い年齢層が楽しめるスポーツとして普及し、競技人口も約54万人を数える。

(公財)日本ソフトテニス連盟では、ソフトテニスの発展のため国際普及活動に力を注いでおり、韓国・中華台北と共に、東南アジア等への普及も積極的に行っている。昭和31年からアジア大会を開催し、その後もアメリカ・ハワイ・ヨーロッパ・アフリカ南米等への普及を図り、昭和49年には「国際軟式庭球連盟」結成を成し遂げ、昭和50年ハワイにおいて「第1回軟式庭球世界選手権大会」が開催された。

こうして、ソフトテニスは国際スポーツの仲間入りをしました。その後の普及活動で中国も参加し、昭和61年からソフトテニスを正式に大学の科目として採用した結果、中国各地に普及している。

平成2年の「北京アジア競技大会」では公開競技として開催され、平成6年の「広島アジア競技大会」では正式競技として開催されました。この両アジア競技大会の間にソフトテニスの国際化は急速に進みました。更に、国際化を図るため、100年以上続いた名称「軟式庭球」から平成4年には国際普及のため「ソフトテニス」に改めました。

平成15年に広島市で開催された「第12回世界選手権大会」では、過去最大の30ヶ国（地域）が参加するに至っています。国際大会については、平成16年「第5回アジア選手権大会（チェンマイ）」、平成17年「第4回東アジア大会（マカオ）」、平成18年「第15回アジア競技大会（カタール・ドーハ）」、平成19年「第13回世界選手権大会（韓国・安城市）」が開催され、平成20年は「第6回アジア選手権大会（韓国）」が開催された。

なお、上記国際大会（世界選手権大会・アジア選手権大会・東アジア大会・アジア競技大会）が、4年に1度のローテーションで開催されている。

(公益財団法人日本ソフトテニス連盟HP. 参照)



会員卓話

## 「i p s 細胞を知ろう」

辻 啓次郎 会員

(昭和11年生まれ)  
(昭和55年7月入会)

この細胞は別名「人工多機能性幹細胞」とも言います。最近よく癌の幹細胞とか、神経や心臓の幹細胞という言葉をよく使いますが、白血病患者に使う骨髄細胞も幹細胞の一つです。山中伸弥教授がノーベル賞を受賞してから、これまで、全国や地方の新聞にこれに関連した記事が頻繁に掲載されるようになりました。少し詳しく知りたいと思っていたところ、青春出版社から「この一冊でi p s 細胞が全部わかる」という、東大と東北大学の教授が書いた小冊子が出ましたので早速読ませて頂きました。科学書の為にやや理解し難い面もありましたが、まず冒頭に、「ジェンナの種痘」や、「人の血液型の発見」、「フレミングの抗生物質の発見」よりも、広範囲に未来の医学を変える大きな発見であると述べています。又著者の言葉では人の培養細胞に四つの新たな遺伝子を加えて培養し、理論的には人の体のどのような細胞にも変わる事の出来る所謂、「万能細胞」を造り出したとの事です。この細胞はいつまでも培養し続けることが可能です。この一つの細胞からどんな組織や臓器でも、又場合によっては一人の人間でも育てる能力があると述べています。これだけでも私達の想像を超えた世界ですが、もうすでに身近な事として、目の病気で失明を引き起こす加齢黄斑変性症の患者に、この細胞で出来た網膜の移植をするようです。山中教授がi p s 細胞に成功したのは2006年でしたがちょうど同じ頃にアメリカでもトーマスが同じものを造ったようですが、山中教授に軍配が揚がったようです。

またもう一つES細胞という言葉をご存知かも知れませんが、この細胞も万能細胞で1981年今から25年前にイギリスのエバンス等によって造られました。これはマウスの受精卵を分製の途中でとり出して培養したものです。これを培養し続けると癌細胞になりやすいことや、受精卵を使うという事で、ヨーロッパのカトリックの強い国ではあまり好まれず、米国で主に研究されています。i p s 細胞を研究する上でよいモデルになっているようです。

i p s 細胞の利用法として「再生医療」という言葉が良く使われます。また難病の患者のi p s 細胞を造って原因を究明したり難病に良く効く薬を研究したりしています。最近ではアルツハイマー病の神経細胞にアミロイドが蓄積している事や、それを取り除く方法も研

究されているようです。認知症が良くなればありがたいことです。また長寿を研究する為に110歳以上の方々の細胞を集めているようです。また輸血などに利用するのに、迅速に出来るように用意したり、癌の治療には癌細胞を攻撃する免疫細胞をi p s 細胞で造って同じ患者に戻して免疫力を高めることも考えています。また肝臓や腎臓といった臓器を造る事はやや苦手の様ですが、これも色々工夫をしているようです。言葉が悪いですが、禿げ頭もその人のi p s 細胞で毛根を造って移植し、ユールブリンナはいなくなるでしょう。子供の出来ない夫婦に恵みを与えたり、再生可能の夢は膨らみます。最近の予想では2020年以降には本格化すると予想されており、私の年齢から考えると、あと10年遅く生まれたかったなあと残念でもあります。これによる経済効果も大きく、京都大学は欧米や米国からも特許を取得しており、国内総生産(GDP)を3兆円も押し上げ、TPP参加に匹敵する経済効果が期待できるとも言われています。そればかりか自分のクローン人間を造り出す金持ちが出て来るかも知れません。

いままでは、i p s 細胞がもたらす素晴らしい夢を話させてもらいましたが、これからは少しネガティブな話をさせてもらいます。山中教授は、RS細胞がどうして色々な細胞や臓器に分化するのか、その原因が遺伝子であると考え調べた結果、28ヶの遺伝子があり、そのうちの4つの遺伝子を選んで使って成功しましたが、そのうちの一つが癌遺伝子でもあったことから、それを取り除いた3つの遺伝子でi p s 細胞を造り始めました。しかし現在ではまだ不明な点が多いようです。また再生医療に用いる場合も拒絶反応が全くないとはいえないとのことです。

よく遺伝子操作をして造られたトウモロコシ等を嫌う人がいますが、今まで数10億人中一人も病気になった人はいません。従ってi p s 細胞の場合も、癌になる可能性を0にしなければ全ての研究がストップする危険があります。しかし難病を完治させる可能性もあり、医療の革命は全てこのような歴史を辿ってきたと著者は述べています。尚、遺伝子について補足しますと、今までは検査に億単位していたものが、数時間で解析できる3千万円くらいの機械と検査費が10万円位で出来るようになるそうで、これからは癌の遺伝子の有無や薬の副作用の有無など自分の遺伝子のメモ리카ードを持参する時代が予想されます。

何れにしても近い将来には身近な医療手段として実用化されるのは確かなようです。関心を持って頂けたらと思います。

創立60周年記念ゴルフ大会-3月17日・白浜ゴルフ倶楽部-



渡部正義  
創立60周年記念委員長



中松村夫会長



シニア優勝  
楠見 雅信 会員(粉河RC)



60周年記念賞  
伊賀 久記 会員

優勝  
中 善隆 会員(有田南RC)

